

平成 29 年度

公益財団法人いわき市教育文化事業団決算書
(抜粋)

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日

公益財団法人いわき市教育文化事業団

目 次

	ページ
・ 事業報告書	1
・ 決算報告書	12

事 業 報 告 書

目 次

	ページ
I 概 況	
1 総括事項	3
II 業 務	
1 文化財部門（公1 埋蔵文化財の発掘調査事業）	
(1) 文化財発掘調査	4
(2) 埋蔵文化財啓発活動	4
2 施設部門（公2 教育文化施設の管理運営事業）	
(1) いわき市立草野心平記念文学館及び草野心平生家	4
(2) いわき市暮らしの伝承郷	5
(3) いわき市アンモナイトセンター	6
(4) いわき市考古資料館	7
(5) 福島県いわき海浜自然の家	7
(6) いわき市生涯学習プラザ	7
(7) いわき市勿来勤労青少年ホーム	8
3 管理部門（法人会計）	9
III 評議員会・理事会に関する事項	
1 評議員会	10
2 理事会	10
3 役員等に関する事項	10
IV 職員に関する事項	
1 事務局	11
2 施設	11

I 概 況

1 総括事項

平成29年度は、公益財団法人移行4年目となり、今まで以上に本事業団の役割を認識し、市民協働による様々な事業を展開した。理事会4回、評議員会3回を開催し、公正・公平で透明な事業運営に努めた。

東日本大震災から7年目を迎え、復旧から復興へと変化する中、埋蔵文化財発掘調査事業(公益目的事業1)と教育文化、生涯学習施設の管理運営事業(公益目的事業2)を中心として、本事業団の専門性を生かし、市・県民の心の支えになるよう職員一丸で取り組んだ。

文化財部門は、市内の震災復興関連の事業の減少に伴い発掘調査事業が激減し、市関連の調査事業に加えて、双葉郡内や矢祭町などの市外の調査等を受託した。事業量は前年度より1件増の14件であるが、収入額は、約1,400万円少ない約14,800万円となった(下表)。

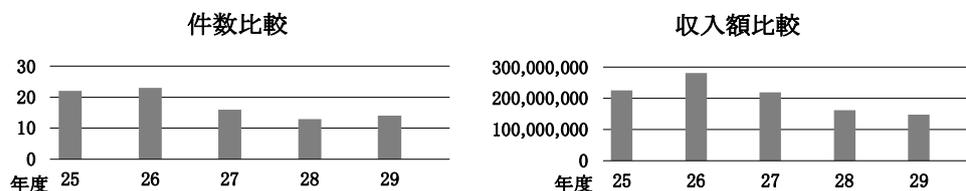
施設部門は、今年度も教育文化施設及び社会教育施設8施設の指定管理業務を行っている。また、指定管理期間が終了する勿来勤労青少年ホーム及び勿来関文学歴史館の指定管理者公募に対する申請を行い、平成30年4月1日からの管理受託が内定した。

草野心平記念文学館・暮らしの伝承郷・アンモナイトセンター・考古資料館では、各種展示会及び体験学習会を開催し、好評を博した。

本年度は、安定的な収入源の確保と経費節減につとめたが、約1,550万円の赤字決算となった。

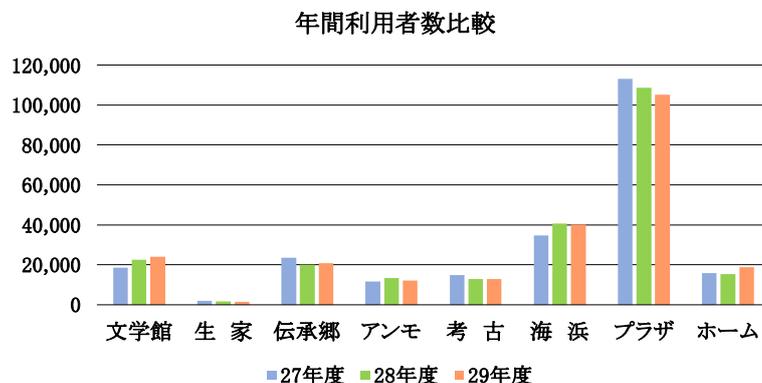
○ 発掘調査事業契約件数と収入額の年度別比較(25～29年度)

年度	25	26	27	28	29
契約件数 (単位:件)	22	23	16	13	14
収入額 (単位:円)	226,446,000	281,235,210	219,915,000	162,388,800	148,185,720



○ 施設年間利用者数比較(27・28・29年度)

	文学館	生家	伝承郷	アンモ	考古	海浜	プラザ	ホーム	合計
27年度	18,512	1,864	23,431	11,638	14,907	34,687	113,194	15,749	233,982
28年度	22,469	1,573	19,941	13,319	12,932	40,566	108,664	15,242	234,706
29年度	24,116	1,408	20,767	12,162	12,821	40,194	105,209	18,751	235,428



II 業 務

1 文化財部門

(1) 文化財発掘調査

平成29年度に受託した事業は、新規13件と前年度からの継続1件の合計14件である。事業内訳は、いわき市内が7件（発掘調査1件、確認調査2件、資料整理・報告書作成4件）、市外が7件（矢祭町の発掘調査・資料整理各1件、楢葉町の資料整理・報告書作成2件、大熊町の資料整理2件、浪江町の資料整理・報告書作成1件）である。

発掘調査等における主な成果は、矢祭町の割目遺跡があげられる。平安時代の集落が検出され、多数の遺物が出土した。出土品には「高野」と書かれた墨書土器があり、『和名類聚抄』に記載されている「高野郷」との関連が推察される資料である。

埋蔵文化財調査報告は概報を含め5冊を刊行した。

(2) 埋蔵文化財啓発活動

ア 現地説明会の開催

実施月日	実施項目	内 容
平成29年11月23日(木)	矢祭町割目遺跡現地説明会	矢祭町教育委員会主催。参加者25名。 「割目遺跡発掘調査説明資料」を作成し参加者に配布した。

イ 企画展共催

実施月日	実施項目	内 容
平成29年9月20日(水) ～同 11月20日(月)	「平成28年度発掘速報展」	考古資料館との共催。19遺跡22件の成果を一般に公開。入館者1,948名。
平成29年10月7日(土)	「遺跡報告会・展示解説会」	「平成28年度発掘速報展」関連事業として、4遺跡の調査成果について、各調査担当職員が報告した。また、展示会場で資料の解説を行った。 参加者 報告会32名 解説会39名。

ウ 頒布図書

調査報告書2冊を増刷し、市民・研究者等に頒布した。内訳は、『泉町C遺跡』30冊、『酒井酒井原遺跡・北境遺跡・泉城下町遺跡』20冊。

2 施設部門（公2 教育文化施設の管理運営事業）

(1) いわき市立草野心平記念文学館及びいわき市草野心平生家

いわき市立草野心平記念文学館

年間入館者は24,116名で、前年度比1,647名の増であった。年間開館日数は312日間だった。

平成29年度は、春、夏、秋、冬と4つの企画展を開催した。

春の企画展「草野心平の詩 料理編」は、昨年度の「草野心平の詩 青春無頼編」に引き続き、心平の作品を新たな切り口で展観することを目的に開催した。心平独特の調理法をはじめ、食材への確かな目利きと、鋭敏で記憶力抜群の味覚による随筆なども

とに、心平の創作料理を再現、試食する催しなども開催し、「元来が。／愛による。／発明。」という詩人の料理への思いと、その等身大の魅力を紹介した。

夏の企画展「いわむらかずお絵本原画展」は、「14ひきのシリーズ」「こりすのシリーズ」「かんがえるカエルくん」などの作品で知られる絵本作家いわむらかずおの作品を紹介した。中でも「14ひきのシリーズ」は、小動物の日常生活とそこで育まれる家族の絆をとおして人間のあり方を投影し、国内外で広く親しまれ続けている。来館者は、絵本原画の細密な画法を間近で鑑賞するとともに、作家本人の講演会、絵本の読み聞かせなどの関連催事をとおして、作品世界の奥深い魅力にあらためてふれていた。

秋の企画展「没後40年記念 吉野せい展」は、1975年、『涙をたらした神』が、第6回大宅壮一ノンフィクション賞と第15回田村俊子賞を受賞し、76歳の「新人作家」として話題となった、いわき市出身の作家せいの生涯と作品の魅力を紹介した。そして、創作の背景となった場所や出来事に光をあてるとともに、夫の吉野義也（詩人・三野混沌）、猪狩満直、そして心平との交友関係も展覧した。

冬の企画展「新収蔵品展」は、新たに購入した資料をはじめ、心平資料の収集家や出版関係者などから寄託などを受けた文学資料を展覧し、心平の創作活動の新たな一面とその魅力を紹介。心平の業績を末永く顕彰する機会とした。

スポット展示は、「草野心平と小学校」「草野心平の童話」「猪狩満直～かなしいやつ～」「草野天平 松禅院での詩作」を開催し、心平の創作活動の一面やいわきゆかりの文学者、資料を紹介した。

普及活動では、夜間開館時や週末を中心に演奏会などを開催し、文学や芸術にふれる場を提供した。あわせて、絵本を読み聞かせるおはなし会を開催し、子どもたちが絵本などに接することで、物語の楽しさに親しむきっかけになることを目指した。また、夏の企画展会期中に開催した「アクアマリンふくしま移動水族館」では、小川地区の団体と連携して地場産品や軽食を販売するなど、企画展とあわせ親子で終日楽しめる催しを開催した。さらに小川中学校吹奏楽部による演奏会など、文学館が立地する小川町住民との連携を図った。

いわき市草野心平生家

年間入館者数は1,408名で、前年度比165名の減であった。年間開館日数は312日間だった。

通常の開館時はボランティアの会員が心平と故郷のかかわりを解説しつつ、温かく来館者に接している。

催しは、春の「心平誕生日の市民朗読会」で小川小学校、小川中学校の児童、生徒の参加が定着し、秋の「心平忌・心平を語る会」とあわせて心平を顕彰する機会になっている。さらに、親子連れなどが楽しく参加するワークショップ「カエルの折り紙をつくらう」、心平の弟天平を偲ぶ「草野天平の集い」など、心平と故郷とのつながりに関心を持つきっかけとなる催しを展開した。

(2) いわき市暮らしの伝承郷

平成29年度の入園者数は20,767名で、前年度比826名約4%の増であった。懐かしさや郷土愛を感じる展示会、健康体操など、市民ニーズに応える事業を実施した結果と分析される。

伝承郷の中心的事業である景観復元・伝承・管理作業は、平成11年の開園以来、昔の暮らしぶりそのものの景観復元と伝承をコンセプトに実施している。平成29年度も畑作・里山作り・庭木の手入れ、落ち葉掻き、古民家の日常的な雨戸の開閉、清掃、囲炉裏火焚き・薪作り、梅干し・干し柿作りなど幅広い項目について実施した。栽培する野

菜や作業の方法、扱う道具についても、古民家同様園内展示の一環として位置付け、極力昔の方法・道具を取り入れながら実施した。

展示会は、第1回企画展「『におい』と『温もり』—高橋孝太郎作品展2—」、第2回企画展「久之浜張子の世界展」、第3回企画展「伝承郷収蔵品展」、特別展「福島県立博物館移動展 東北の仕事着コレクション」の合計4回開催し、関連事業として展示解説を実施した。「久之浜張子の世界展」では張子製品のほか、市指定文化財を含む木型などを紹介し、地元の文化・伝統を再発見し、郷土愛を育む機会とした。この展示会を契機として寄贈された久之浜張子、富岡張子を「伝承郷収蔵品展」でいち早く展示した。

伝承郷講座は、市民の要望に応え、身近にある民俗をテーマに、計3回実施した。第1回は「風呂敷作法講座」、第2回は「暮らしと共にあった森林—一屋敷林」、第3回は「16mmフィルムが映す昭和11年のいわき〜いわきの町を映像で見てみよう〜」を開催した。

体験学習は、演奏会など申込不要で気軽に参加できるもの、「けん玉道場」や「竹馬教室」など親子で楽しむことができるもの、昔から行われてきた「正月飾り作り」や「餅花作り」など、子どもから大人までの幅広い年齢層を対象に、計29回実施した。また、学校などの要望に応じて「昔遊び体験」などを実施するとともに、いわきFスポーツクラブとの共催により「貯筋体操&レクスポーツ」を計9回開催した。

年中行事は、「端午の節句飾り」「盆棚飾り」「エビスコ」「煤払い」「正月飾り」など、年間を通して計23回の伝統行事を古式に則り再現展示し、「お月見」にあわせて「お月見どろぼう」を初めて実施した。

伝統芸能実演は、市内の伝統芸能「じゃんがら念仏踊」を内郷下綴青年会、「三匹獅子舞」を田人町黒田芸能保存会が実演し、鑑賞と伝統芸能の継承、伝承の機会を提供した。

小学生を対象とした「キッズ民話語りの会」は、第24回を迎え、小中学生5名がこの養成講座を受講し、発表会で民話の語りを披露した。

市民の文化活動発表の場として定着した企画展示室のサークル・団体への貸出は、通算10団体であった。

その他、ガイドボランティアなどを対象としたボランティア研修会を継続するとともに、「キッズミュージアムin伝承郷」と「収穫祝いの餅つき」では青少年ボランティアを活用し、市民協働の施設運営に努めた。民俗・歴史に関するレファレンス事業、御宝殿熊野神社（錦町）などの祭礼調査を実施した。

(3) いわき市アンモナイトセンター

平成29年度の入館者数は、前年度比1,157名減(前年度比91.31%)となる12,162名であった。入館者数が減少した理由として長雨の影響で6～8月の入館者数が伸び悩んだことがあげられる。例年の傾向として、第1～第2四半期の利用者数が好調に推移する一方、晩秋～冬季(第3四半期後半～第4四半期)の利用者数が伸び悩んでおり、同時期における利用者増に向けた新たな試みが課題として挙げられる。

小・中学校の夏休み・冬休み期間をターゲットとして開催した企画展における入館者数は、夏休み企画展で3,256名(前年度比652名減)、冬休み企画展で512名(前年度比292名減)となった。企画展会期中に実施したミニ発掘および体験コーナー(夏休み：三葉虫化石、冬休み：コーパル磨き、いずれも外国産)は、取り出した本物の標本を持ち帰ることができることもあり、これらを目的として来館する利用者も多かった。

さらに、地元である久之浜・大久地区との連携事業としての「化石講演会」、啓発事業としての「親子自然探訪教室」や「出前講座」を実施した。

(4) いわき市考古資料館

平成29年度は開館20周年を迎え、8月6日には入館者20万人を達成することができた。

利用者数は12,821名で、昨年度比111名の減となった。内訳を見ると、入館者数は11,637名で昨年度比695名の増、出前講座などの館外利用者数は28件1,184名で昨年度比12件806名の減であった。また、団体入館者は、71件1,659名で昨年度比19件50名の増であった。年間を通して利用者数を見ると、上半期は、すべての月で前年度より増となり、逆に1月を除く下半期はすべての月で前年度より減となった。

企画展は、通常の企画展3回とミニ企画展1回のほか、臨時の特別展2回とミニ企画展1回の計7回開催した。

講座・講演会は、「いわきの考古学講座」全6回、「自由研究に挑戦しよう!!」、「ボランティア養成講座」及び企画展に合わせた講演会や解説会、探訪会など計14回開催した。

体験学習会は、「ゴールデンウィーク体験学習会」、「夏休み体験学習会」、「いわきキッズミュージアム2017」、「古代まつり」、「勾玉づくり体験会」、そして、「バレンタインデー特別体験学習会」など6事業計23日間開催した。

収蔵資料の調査研究や貸出と問合せなどへの対応も当館の重要な業務のひとつであり、市民及び研究者や学生、関係機関の要請に応えた。また、8月には3名の学芸員実習を実施した。

このほか、経年劣化が原因の雨漏りや設備の故障などが頻発しており、所管課と協議の上可能なものについては随時修理・修繕を行い、施設の維持・管理に努めた。また、ホームページ内容の充実とともに、Facebookを立ち上げ、広く情報の提供に努めた。

(5) 福島県いわき海浜自然の家

平成29年度の利用状況は、518団体延べ40,194名で、平成28年度とほぼ同数となった。特に団体数では2か年続いて500団体を超え、震災前の546団体に追いつこうとしており、2年続いて40,000名を超えることができた。

事業は、春のオープンデーなど施設を一般に開放して当施設を広く県民に周知するものと、秋と冬には利用者のニーズに合わせた事業を開催し、本施設の理解を深めることができた。さらに、閑散期の利用促進を図る目的で開催した「森の音楽会」は、地元高校生の吹奏楽部による演奏会であったこともあり、参加者から高い評価を得ることができた。

これら各種事業においては、広報チラシ・ポスターの配布をはじめ、四倉と久之浜・大久各支所経由による回覧板を有効に活用した。さらに、ホームページには事業案内及び実績報告等を随時掲載して広く県民への周知を図った。

なお、所内の各種研修や報告会のほか、所外のさまざまな研修・講習などへの参加によって職員の資質向上を図り、県民に愛され親しまれる施設づくりに努めた。

(6) いわき市生涯学習プラザ

平成29年度の施設利用者は105,209名で前年度より3,455名の減、施設使用許可申請件数は27件減の2,766件であった。このうち社会教育関係団体の申請件数は1,947件で73件の増となっているが、社会教育関係団体の構成人員が減少傾向にあり、全体の利用者数を引き下げる結果となっている。

市民講座は、62の講座を実施した。生涯学習プラザ講座のほか、ボランティア活用事業として、子育て支援ボランティアによる「プラザおはなし会」「子どもと遊ぼう」やITボランティアリーダーによるパソコン講座を毎月開催し、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層に対応した講座を提供した。さらに、サークル・団体が実施するサークル企画講座では、「朗読教室」「歌唱法講座」「水墨画講座」「香道体験講座」「絵手紙講座」

を延べ8講座開催した。

全市的な事業として広く市民に浸透している「いわきヒューマンカレッジ(市民大学)」は、「健康ライフ学部」「経済経営学部」「都市環境生命学部」「いわき学部」の4学部を開設し、466名の入学者があった。健康ライフ学部では、受講者が200名を超えるなど、市民の学習ニーズにあった学部を開講できた。市民大学開学20周年となることから、入学式で記念式典を開催し、童門冬二学長と生涯学習支援ボランティアの会への感謝状を贈呈した。

第13回「生涯学習フェスティバル」には、2,121名の入館者があった。これまで地元商店会主催イベントと同時開催することで集客を図っていたが、当該イベントが平成28年度をもって終了となった影響もあり、参加者数が減となった。オープニングセレモニーでの「泉ハーモニカクラブひばり」によるハーモニカ演奏や「キッズ民話語りの会」による昔話の語り、防災体験コーナーやプラザ利用団体の各種展示や発表など、幅広い年齢層を対象に、多くの市民へ学習の場・交流の場を提供することができた。また、いわき市生涯学習プラザ開館15周年記念事業として、特別展「写真に見るいわきの映画館～娯楽の王様映画の記憶～」と記念講演を開催し好評を博した。

いわきヒューマンカレッジや生涯学習フェスティバルの運営や講座の開催にあたっては、いわき市生涯学習支援ボランティアの会の支援があり円滑に運営することができた。

生涯学習プラザ事業の広報については、年間事業案内のほか、講座・イベントごとの詳細な案内チラシを作成し、市内公共施設での配布のほか、ホームページやFacebook等のメディアで情報提供を行った。また、利用者懇談会やアンケート調査でモニタリングを重ね、市民目線に立った効率的な管理運営に努めた。

(7) いわき市勿来勤労青少年ホーム

平成29年度は、指定管理者として平成27年4月1日から平成30年3月31日までの3年間受託した最終年度である。利用者数は18,751名で、昨年度と比べて3,509名、約23%の大幅増となり、しかも、開館以来最多利用者となった。

教養講座は、年間講座14講座、短期講座5講座の合計19講座を実施した。講座参加者総数は、1,607名であり、83名の増加となった。新規講座としては、今年度は新たな企画として近隣事業所に勤めている新入社員を対象にした「フレッシュ講座」として「kaneyama flow yoga講座」や「バドミントン講座」、「かねやまごはん講座」を開催した。その中で、エクササイズを兼ねた「ヨガ」「バランスボール・ピラティス」の講座は女性に人気があり好評であった。

サークル活動総数は、10,119名であり、前年度に比べて2,858名の大幅増となり、趣味を共有しながら年間を通して活動した。

年1回のスポーツイベントである福島県勤労青少年ホーム交歓会は、喜多方市押切川公園体育館で開催された。当ホームからは22名が参加し、121名の県内会員と情報を共有しながら親睦を深めることができた。バドミントン種目に2チームが参加し、6年ぶりの優勝を果たすなど、これまでの練習の成果を互いに分かち合いながら、親睦を深めることができた。

勤労青少年の日記念事業である「勿来ホーム祭」は、早朝から多くの市民が来館し、成果発表や作品展示などを楽しみながら参加することができ、好評を博した。

これらの各事業においては、ホームページや広報誌をはじめ、各講座の案内を通して、最新情報の提供を行うとともに、運営委員会の意見などを反映しながら、市民サービスを最優先として効果的な管理運営に努めた。

3 管 理 部 門 （ 法 人 会 計 ）

(1) 業務執行体制等について

業務執行に当たっては、各施設の業務仕様書による適正人員を基準に、各施設の事業量を考慮した人員配置を行い、業務の円滑な運営に努めた。また、健全な事業運営を図るため、次年度新規受託に伴う専門職(学芸員)1名と退職者補充に伴う専門職(研究員)1名を、平成30年4月1日付け採用者として内定した。

財務会計については、収支相償に留意し適切に処理した。

(2) アクションプラン(行動計画)の作成

各施設等の目標達成に向けて年度当初に作成したアクションプランは、中間時点での評価を行うことにより、問題点を指摘し職員一丸となって職務に邁進した。

(3) 情報開示

本事業団のホームページに財務諸表及び各施設等の事業計画や報告等の情報提供を迅速に行った。

さらに、平成28年度「年報」を作成(平成29年12月22日発行)し、関係機関等に配布した。

(4) 研修、啓発・広報等

研修については、スキルアップのための専門的研修や安全衛生関係の資格取得のための講習会等に積極的参加することにより、資質の向上に努めた。自主研修に関しては、4名が実施した。さらに、調査研究の成果を市民に還元するために、「研究紀要」第15号を作成(平成30年3月16日発行)した。内容は、業務の成果報告と論考1件、地域史の研究1件、発掘調査成果に関する論考1件である。

また、基本研修等については、公益財団法人ふくしま自治研修センターへの登録を行い、平成30年度以降、階層研修等への参加による体系的な研修を行うこととした。

出前講座は、16団体(小学校4校、中学校3校、公民館6館、その他3件)計25回の講座を実施し、延べ923名が受講した。今後とも、事業団が有する専門性を生かし、さまざまな分野について市民に還元していきたい。

自主事業として、たからものずかん5「いわきの文学者」を1,000部発行し、各施設に配布するとともに、出前講座等での使用を想定している。

「みんなで学ぼういわきの歴史」については、増刷を行い、普及活用事業や出前講座等でのテキストとして活用している。

Ⅲ 評議員会・理事会に関する事項

1 評議員会

	議案番号	件名	提出年月日	議決年月日
臨時	第1号	評議員の選任について	平成29年4月12日	平成29年4月12日
定時	第1号	平成28年度決算の承認について	平成29年6月27日	平成29年6月27日
臨時	第1号 第2号	理事の選任について 監事の選任について	平成30年3月22日	平成30年3月22日

2 理事会

	議案番号	件名	提出年月日	議決年月日
第1回	第1号 第2号	平成28年度決算の承認について 平成29年度定時評議員会の招集について	平成29年5月26日	平成29年5月26日
第2回	第1号 第2号 第3号	庶務規程の改正について 給与等に関する規程及び定年退職者の再雇用に関する規程の改正について 平成29年度収支補正予算について	平成29年12月27日	平成29年12月27日
第3回 書面決議	第1号	平成29年度臨時評議員会の招集について	平成30年3月15日	平成30年3月15日
第4回	第1号 第2号 第3号 第4号	庶務規程の改正について 平成30年度事業計画及び収支予算について 常務理事の選定について 事務局長の選定について	平成30年3月23日	平成30年3月23日

3 役員等に関する事項

評議員7名、理事8名、監事2名

区分	年月日	役職名・氏名	備考
就任	平成29年4月13日	評議員 柳沼 広美 評議員 緑川 伸幸	
辞任	平成30年3月31日	理事 渡辺 紀夫	常務理事兼事務局長
		監事 伊藤 章司	

IV 職員に関する事項

平成30年3月31日現在

1 事務局

括弧内数字：兼務職員数 単位：名

区分	事務局長 同相当職	次長 同相当職	係長 同相当職	主任職	係員	嘱託 職員	日々雇用 職員	計
事務局	1	2	—	—	—	—	—	3
企画管理係	—	1	—	—	2	—	1	4
調査第一係	—	1	—	3	—	—	—	4
調査第二係	—	(1)	1	—	1	—	15	17 (1)
計	1	4 (1)	1	3	3	0	16	28 (1)

2 施設

区分	館長 所長 副館長	次長 同相当職	係長 同相当職	主任職	係員	嘱託 職員	日々雇用 職員	計
文学館	2	1	1	1	—	—	4	9
伝承郷	1	—	1	—	2	—	3	7
アンモナイト センター	1	—	—	—	1	1	1	4
考古資料館	1	(1)	—	—	(2)	—	3	4 (3)
いわき海浜 自然の家	1	1	2	1	2	3	6	16
生涯学習 プラザ	2	1	—	1	1	—	6	11
勿来勤労 青少年ホーム	1	—	—	—	—	—	2	3
計	9	3 (1)	4	3	6 (2)	4	25	54 (3)

合計	10	7 (2)	5	6	9 (2)	4	41	82 (4)
----	----	----------	---	---	----------	---	----	-----------

決 算 報 告 書

目 次

	ページ
1 貸借対照表	14
2 正味財産増減計算書	15
3 財産目録	18
4 監査報告	19

貸借対照表

平成30年3月31日現在

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	188,667,260	186,555,524	2,111,736
未収金	10,619,539	17,152,992	△6,533,453
前払金	147,473	362,283	△214,810
立替金	117,446	167,902	△50,456
仮払金	14,640	28,940	△14,300
未経過通信運搬費	1,585	2,414	△829
未経過租税公課	8,000	1,000	7,000
流動資産合計	199,575,943	204,271,055	△4,695,112
2 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2) その他固定資産			
器具・備品	13	13	0
電話加入権	9,000	9,000	0
投資有価証券	0	10,000,720	△10,000,720
その他固定資産合計	9,013	10,009,733	△10,000,720
固定資産合計	10,009,013	20,009,733	△10,000,720
資産合計	209,584,956	224,280,788	△14,695,832
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	64,926,082	72,145,547	△7,219,465
未払消費税	4,768,000	3,398,200	1,369,800
前受金	0	7,335,120	△7,335,120
預り金	3,332,945	1,031,526	2,301,419
賞与引当金	11,725,202	0	11,725,202
流動負債合計	84,752,229	83,910,393	841,836
2 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	84,752,229	83,910,393	841,836
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
受取出捐金	10,000,000	10,000,000	0
指定正味財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(10,000,000)	(10,000,000)	0
2 一般正味財産			
一般正味財産合計	114,832,727	130,370,395	△15,537,668
正味財産合計	124,832,727	140,370,395	△15,537,668
負債及び正味財産合計	209,584,956	224,280,788	△14,695,832

正味財産増減計算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益 (A)	1,000	16,100	△15,100
基本財産受取利息	1,000	16,100	△15,100
② 事業収益 (B)	545,381,799	557,221,112	△11,839,313
文化財調査受託料	148,185,720	162,388,800	△14,203,080
施設指定管理料	384,013,000	380,656,960	3,356,040
1 市アンモナイトセンター	17,073,000	16,895,000	178,000
2 市考古資料館	13,264,000	13,001,000	263,000
3 市立草野心平記念文学館	68,483,000	67,906,000	577,000
4 市草野心平生家	3,151,000	3,151,000	0
5 市暮らしの伝承郷	40,842,000	40,450,000	392,000
6 市生涯学習プラザ	86,027,000	85,432,000	595,000
7 県いわき海浜自然の家(県)	142,258,000	141,038,000	1,220,000
8 市勿来勤労青少年ホーム	12,915,000	12,783,960	131,040
施設事業受託料	7,010,909	7,150,492	△139,583
1 いわきヒューマンカレッジ	3,633,000	3,633,000	0
2 未来キッズ生き生き事業	3,377,909	0	3,377,909
3 ふくしまっ子自然体験活動応援(県)	0	1,576,732	△1,576,732
4 みんなで学ぼういわきの歴史	0	1,940,760	△1,940,760
施設利用料	5,779,960	6,985,960	△1,206,000
出版物頒布料	392,210	38,900	353,310
③ 受取負担金 (C)	0	0	0
講師派遣料	0	0	0
④ 受取寄附金 (D)	0	0	0
寄附金	0	0	0
⑤ 雑収益 (E)	2,162,533	608,233	1,554,300
受取利息	11,811	28,515	△16,704
雑収益	2,150,722	579,718	1,571,004
経常収益計 (A~E)=(F)	547,545,332	557,845,445	△10,300,113
(2) 経常費用			
① 事業費 (G)	534,128,520	531,203,714	2,924,806
給料手当	122,180,210	129,171,990	△6,991,780
賃金	119,970,630	125,481,384	△5,510,754
賞与引当金繰入額	10,323,734	0	10,323,734

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
共済費	38,469,501	38,528,696	△59,195
報償費	6,932,820	6,410,848	521,972
旅費	5,948,658	5,568,283	380,375
消耗品費	15,681,229	15,242,640	438,589
被服費	513,742	274,672	239,070
燃料費	7,925,076	6,153,685	1,771,391
食糧費	412,931	386,885	26,046
印刷製本費	11,123,569	15,548,337	△4,424,768
光熱水費	30,615,011	27,897,311	2,717,700
修繕費	9,253,190	11,750,195	△2,497,005
医薬材料費	67,865	72,646	△4,781
通信運搬費	5,982,496	6,108,822	△126,326
広告料	343,902	316,902	27,000
手数料	1,386,907	1,324,634	62,273
保険料	1,551,551	1,276,090	275,461
委託料	80,935,099	70,048,248	10,886,851
使用料及び賃借料	39,101,072	40,636,040	△1,534,968
工事請負費	1,617,273	612,737	1,004,536
原材料費	330,169	763,846	△433,677
負担金	297,752	317,510	△19,758
公租公課	22,158,570	23,843,253	△1,684,683
消耗什器備品費	1,005,563	3,318,408	△2,312,845
減価償却費	0	149,652	△149,652
② 管理費	28,954,480	23,885,655	5,068,825
報酬	265,600	273,900	△8,300
給料手当	14,035,193	10,614,562	3,420,631
賃金	3,782,127	3,155,672	626,455
賞与引当金繰入額	1,401,468	0	1,401,468
共済費	3,823,212	3,030,594	792,618
報償費	277,034	163,600	113,434
旅費	233,085	90,569	142,516
交際費	15,000	175,000	△160,000
消耗品費	418,587	743,878	△325,291
燃料費	54,301	45,679	8,622
食糧費	16,116	44,580	△28,464
印刷製本費	556,146	1,703,446	△1,147,300
光熱水費	103,081	93,917	9,164
修繕費	0	10,800	△10,800

(単位円)

科 目		当年度	前年度	増減
通信運搬費		236,906	330,906	△94,000
広告料		0	0	0
手数料		381,347	386,742	△5,395
保険料		73,870	52,570	21,300
委託料		174,554	128,916	45,638
使用料及び賃借料		998,097	1,006,417	△8,320
原材料費		0	0	0
負担金		335,416	339,550	△4,134
補償費		0	0	0
公租公課		1,773,340	1,494,357	278,983
消耗什器備品費		0	0	0
経常費用計	(G+H) = (I)	563,083,000	555,089,369	7,993,631
当期経常増減額	(F-I) = (J)	△15,537,668	2,756,076	△18,293,744
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	(K)	0	0	0
(2) 経常外費用				
① 固定資産減損損失				
器具備品除却損		0	184,271	△184,271
電話加入権減損損失		0	440,904	△440,904
経常外費用計	(L)	0	625,175	△625,175
当期経常外増減額	(K-L) = (M)	0	△625,175	625,175
当期一般正味財産増減額	(J+M) = (N)	△15,537,668	2,130,901	△17,668,569
一般正味財産期首残高	(O)	130,370,395	128,239,494	2,130,901
一般正味財産期末残高	(N+O) = (P)	114,832,727	130,370,395	△15,537,668
II 指定正味財産増減の部				
基本財産運用益		1,000	16,100	△15,100
一般正味財産への振替額		△1,000	△16,100	15,100
当期指定正味財産増減額	(Q)	0	0	0
指定正味財産期首残高	(R)	10,000,000	10,000,000	0
指定正味財産期末残高	(Q+R) = (S)	10,000,000	10,000,000	0
III 正味財産期末残高	(P+S)	124,832,727	140,370,395	△15,537,668

財 産 目 録

平成30年 3 月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)			
現金	事務局、施設 6 か所	手許保管	321, 010
郵便振替	ゆうちょ銀行	運転資金	84, 877
預金	普通預金		
	東邦銀行湯本支店 (No.550278)	運転資金	142, 502, 174
	東邦銀行湯本支店 (No.645023)	運転資金	1, 380
	東邦銀行湯本支店 (No.771207)	運転資金	0
	いわき信用組合湯本支店 (No.4165667)	運転資金	5, 091, 173
	いわき信用組合湯本支店 (No.4165675)	運転資金	481, 339
	大東銀行湯本支店 (No.1320261)	運転資金	87, 044
	福島銀行湯本支店 (No.1020548)	運転資金	97, 243
	大和ネクスト銀行ハイ支店 (No.2720140)	運転資金	20
	定期預金		
	いわき信用組合湯本支店 (No.0445390)	運転資金	10, 001, 000
	大東銀行湯本支店 (No.2106944)	運転資金	10, 000, 000
	福島銀行湯本支店 (No.3239363)	運転資金	10, 000, 000
	大和ネクスト銀行ハイ支店 (No.2720140)	運転資金	10, 000, 000
未収金	いわき市、矢祭町、福島県、民間業者	文化財調査受託料未収等	10, 619, 539
前払金	福島労働局	労働保険料確定過払額	147, 473
立替金	いわき市	3 月分藤原収蔵庫電気料金	117, 446
仮払金	草野心平記念文学館	H30. 4. 2出張旅費分前渡	14, 640
未経過通信運搬費	切手	在庫	1, 585
未経過租税公課	印紙	在庫	8, 000
流動資産合計			199, 575, 943
(固定資産)			
基本財産			
定期預金	東邦銀行湯本支店 (No.96210634)	市出捐金	10, 000, 000
その他固定資産			
器具・備品	カメラ等	公 1 事業目的保有財産	13
電話加入権		公 1 ・法人会計事業目的保有財産	9, 000
固定資産合計			10, 009, 013
資産合計			209, 584, 956
(流動負債)			
未払金	人件費	日々雇用職員 3 月分賃金等	11, 772, 353
	物件費	業者に対する未払額	53, 153, 729
未払消費税	いわき税務署	29年度消費税	4, 768, 000
預り金	所得税、市県民税、社会保険料等		3, 332, 945
賞与引当金			11, 725, 202
流動負債合計			84, 752, 229
固定負債合計			0
負債合計			84, 752, 229
正味財産			124, 832, 727

監 査 報 告 書

公益財団法人いわき市教育文化事業団
理事長 上遠野 洋 一 様

平成 30 年 5 月 15 日

公益財団法人いわき市教育文化事業団
監 事 青 木 喜三郎 ⑩

公益財団法人いわき市教育文化事業団
監 事 大 森 馨 ⑩

私たち監事は、平成29年4月1日から平成30年3月31日までの平成29年度における業務及び会計の監査を行い、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法の概要

業務の監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて、事業報告及び理事の業務執行の妥当性を検討しました。

さらに、会計監査については、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて、貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記、財産目録について検討いたしました。

2 監査意見

- (1) 事業報告の内容は、法人の事業活動の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 理事の業務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実
は認められません。
- (3) 貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記、財産目録は、法人の
財産及び損益の状況を適正に表示しているものと認めます。

以上